

【成果情報名】 二条大麦「ニシノホシ」の播種適期と播種量

【要約】 二条大麦「ニシノホシ」で、安定した収量、品質が得られる播種期は11月3～5半旬であり、この時の播種量は7.5kg/10a程度である。また、遅播になった場合は播種量を10kg/10a程度とする。

【キーワード】 ニシノホシ、収量、品質、播種期、播種量

【担当】 長崎県総合農林試験場・作物園芸部・作物科

【連絡先】 電話 0957-26-3330、電子メール ishibashi-y@pref.nagasaki.lg.jp

【区分】 農産

【分類】 普及

【背景・ねらい】

壱岐地域では、平成14年から、焼酎醸造適性の優れる二条大麦「ニシノホシ」の栽培について取り組みを開始したが、安定生産のための栽培技術が確立されていない。そこで、高品質・安定生産のため、検査等級1等、10アール当たり収量400kg以上を目標に、播種適期と適正播種量について検討する。

【成果の内容・特徴】

1. 12月10日播きの遅播では、穂長、千粒重、整粒歩合は高いが、茎数、穂数が減少し、収量の低下が大きい他、破碎率が高く、澱粉価も低い（表1、表2）。
2. 11月12日播きの早播は、遅播と逆の傾向を示し、穂長、千粒重、整粒歩合は低いが、茎数、穂数が増加し、収量が多い他、破碎率が低く、澱粉価は高い（表1、表2）。
3. 11月25日播きの標準播は、各形質とも概ね早播と遅播の間にあるが、早播との差は小さく、収量、澱粉価とも早播よりやや低い程度で、破碎率は同等である（表1、表2）。
4. 外観品質（検査等級）は、播種期間に大差はないが、早播でやや優れる（表2）。
5. 2004年の早播で幼穂凍死が発生し、品質がやや劣ったが収量の低下は見られない（データ略）。
6. 播種量が多くなる程、茎数、穂数は増えるが、穂長、千粒重は逆に低下する傾向を示す（表3）。
7. 遅播では播種量を増やせば増収するが、早・標準播では増収効果は見られない（表3、図1）。
8. 破碎率は遅播で高く、また、各播種期とも播種量が多い程低くなる傾向を示す（表3）。

【成果の活用面・留意点】

1. 総農試の圃場での多条播栽培の試験であり、栽培法によって播種量を加減する。

[具体的データ]

表1 播種期と生育・収量

播種期 (月.日)	苗立数 (本/m ²)	茎数 (本/m ²)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	倒伏	子実重 (kg/a)	対標準 比(%)
11.12(早)	160	1121	83	6.5	678	3.22	5.09	1.0	48.3	104
11.25(標)	158	1155	86	6.7	591	4.03	5.12	1.4	47.4	100
12.10(遅)	159	787	75	7.1	444	4.08	5.17	0.0	36.3	76

注1)栽培法-畦幅150cm、条間30cm、4条播。

注2)数値は播種量と施肥法を込みにしたもので、2002～2004年(播種年次)の3カ年の平均値を示す(表2も同、但し破砕率以下を除く)。

注3)子実重は、粒厚2.2mm以上、水分12.5%換算値。

注4)倒伏の程度は、無-0～甚-6の7段階評価。

表2 播種期と品質、精麦特性、澱粉価

播種期 (月.日)	容積重 (g)	千粒重 (g)	整粒歩合 (%)	検査 等級	破砕率 (%)	搗精時間 (分.秒)	澱粉価 (%)	粗蛋白 含量%
11.12(早)	695	39.9	85.5	2.5	12.7	3.13	85.61	6.91
11.25(標)	648	40.3	86.8	2.8	12.4	3.09	84.71	7.13
12.10(遅)	674	44.1	92.1	(2.9)	21.7	2.34	83.43	8.36

注1)容積重、千粒重は粒厚2.2mm以上、整粒歩合は2.5mm以上。

注2)検査等級は長崎農政事務所調で、1等の上～規格外の7段階評価。遅播は2003年に規格外(収穫期の遭雨による雑菌汚染)となったため2カ年の平均値。

注3)破砕率、搗精時間、澱粉価、粗蛋白含量は、65%精麦で、2003、2004年の平均値。

注4)澱粉価、粗蛋白含量は、各播種期とも標準区(播種量7.5kg、N:8-3-2)の値。

表3 播種期・播種量と生育、収量、品質

播種期	播種量	茎数	稈長	穂長	穂数	子実重	千粒重	破砕率
11.12	5.0	1060	83	6.7	630	48.0	40.7	14.2
	7.5	1126	83	6.5	671	47.9	40.1	12.9
	10.0	1176	82	6.4	734	49.1	39.0	12.0
11.25	5.0	1081	86	6.9	533	47.9	41.3	14.5
	7.5	1165	85	6.7	589	47.6	40.2	12.0
	10.0	1220	84	6.5	649	46.8	39.5	11.2
12.10	5.0	625	73	7.4	375	32.4	44.4	24.7
	7.5	847	75	7.1	456	37.6	44.3	20.9
	10.0	890	75	6.9	502	38.8	43.6	19.2

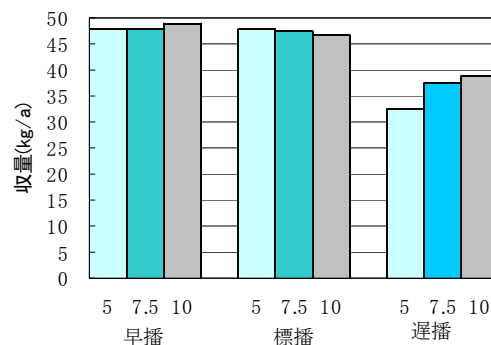


図1 播種期・播種量と収量

注1)2002～2004年、単位は表1、表2に同。

注2)破砕率は2003、2004年の2カ年平均値

[その他]

研究課題名：特産焼酎加工用大麦の高品質・安定栽培技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2002～2005年度

研究担当者：石橋祐二、下山伸行、佐田利行、濱邊 薫